

Oncology News



統合的ゲノムプロファイリング、すべての進行固形がんで有用／JAMA Oncol

次世代シーケンス（NGS）はすべての進行固形がんにおいて有用であることを、米国・ミシガン大学の Erin F. Cobain 氏らがコホート研究の結果で示した。NGS は治療選択に有用な標的ゲノムを特定することから、進行固形がんの日常診療で用いられるようになってきているが、この検査の臨床的有用性は不確かなままであった。JAMA Oncology 誌オンライン版 2021 年 2 月 25 日号掲載の報告。

研究グループは、どのような患者が NGS プロファイリングから最大の臨床的有益性を得られるかを明らかにする目的で、コホート研究を行った。対象は、腫瘍および正常 DNA のゲノムプロファイリング（1,700 遺伝子の解析を伴う全エクソームキャプチャまたはターゲットキャプチャ）と腫瘍トランスクリプトーム（RNA）シーケンスのために、新鮮な腫瘍生検および血液採取を受けた患者。被験者に体細胞および生殖細胞系列のゲノム変化についてアノテーションを実施し、臨床的な治療選択の可能性の程度に従って分類した。結果は、治療を担う腫瘍専門医に報告された。

解析は 2011 年 5 月 1 日～2020 年 4 月 30 日に実施された。医療記録から患者のその後の治療法と治療効果について調査し、NGS に基づいた治療の 6 ヶ月時の臨床的ベネフィット率、および 12 ヶ月以上持続する奏効を評価した。

主な結果は以下のとおり。

- ・ 2011 年 5 月 1 日～2018 年 2 月 28 日に、1,138 例が統合的ゲノムプロファイリングのため生検を受けた。
- ・ 1,138 例中 1,015 例（89.2%）が NGS 検査に成功した。
- ・ 1,015 例のうち、治療選択に有用なゲノム変化が検出されたのは 817 例（80.5%）であった。
- ・ 817 例中 132 例（16.2%）が NGS に基づいた治療を受けた。このうち 49 例（37.1%）で臨床的ベネフィットが得られ、26 例（19.7%）で 12 ヶ月以上持続する奏効が観察された。
- ・ 生殖細胞系列の遺伝子変異（PGV）は、治療に関連する PGV を有する 49 例（コホートの 4.8%）を含む 160 例（コホートの 15.8%）で同定された。
- ・ 原発不明がんを有する 55 例において、NGS により 28 例（50.9%）で原発部位が同定され、13 例で NGS に基づいた治療が行われた。そして 13 例中 7 例（53.8%）で臨床的ベネフィットが得られ、そのうち 5 例で 12 ヶ月以上持続する奏効が観察された。

< 関連文献 >

Cobain EF, et al. JAMA Oncol. 2021 Feb 25. [Epub ahead of print]

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33630025/>

当コンテンツは、株式会社ケアネットの監修により、がんに関連する重要論文を選別し、それらを簡潔に要約したニュースレターです。当社の見解を述べるものではなく、承認外使用を推奨するものではありません。内容の詳細については元文献・元ニュースを、製品に関する情報は各製品の最新の添付文書をご確認いただきますようお願いいたします。

尚、当コンテンツに掲載されている記事等に係る所有権、著作権その他一切の権利は、ニプロ株式会社、株式会社ケアネット、コンテンツ制作者等の著作権者が保有しています。